JENESYS2022

JENESYS2022 日 ASEAN 高校生オンライン交流の記録
（グループ１「SDGs」、グループ２「日 ASEAN 開発協力の歩み」）

１．概要

【目的】ＡＳＥＡＮ地域の将来を担う青年を対象に、日本のSDGsへの取組と日本のASEAN開発協力への取組についての理解を促進し、日本とASEANの友好・協力関係の強化を図ることを目的に、9日間のオンライン交流プログラムを実施しました。参加者は、「SDGs」、「日ASEAN開発協力の歩み」をテーマとするグループに分かれ、聴講や視察、関係者との意見交換を行い、SNS等を通じて多くの人たちにプログラムでの学びを共有しました。また、広島平和ツアーへの参加、ホームステイや沖縄文化体験を通じ、日本の魅力に触れ、日本人との親交を深めました。

【参加者】合計 85 名
（内訳）
グループ１「SDGs」: ASEAN10 か国（注１）及び東ティモールの高校生等　計 39 名
グループ２「日 ASEAN 開発協力の歩み」: ASEAN10 か国（注１）及び東ティモールの高校生等　計 46 名

（注１）ASEAN10 か国：インドネシア、カンボジア、シンガポール、タイ、フィリピン、ブルネイ、ベトナム、マレーシア、ミャンマー、ラオス（10 か国）

【訪問地】東京都、大阪府、広島県、沖縄県、神奈川県、インドネシア（ジャカルタ）

【日程】

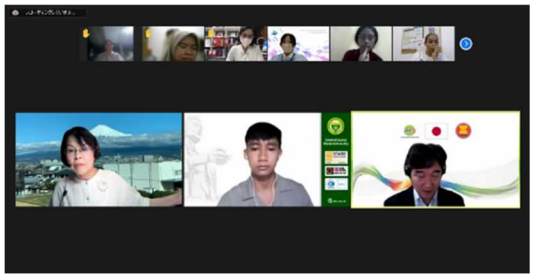
日にち 訪問地	内容	参加者の質問・反応
1 日目 7 月 19 日 東京都	【オリエンテーション】 ① 外務省アジア大洋州局地域協力室長の挨拶：大塚　剛氏 ② 参加者間交流 【テーマ別講義・質疑応答】 ・「SDGs “Fever” in Japan: 私たちにとってなぜ SDGs が重要なのか」 講師：日本貿易振興機構アジア経済研究所研究推進部・上席主任調査研究員 佐藤　寛氏 ・「日 ASEAN の開発協力」（注２） 講師：日 ASEAN 統合基金（JAIF）	オリエンテーションでは緊張していた参加者も、チャットやオンラインでの対面を通じて、参加者同士、打ち解けた様子でした。 「日本ではどのように SDGs 達成を推進しているのか」「日本のアジアへの支援の中で、SGDs に関わる一番は何か」「SDGs を達成するための日本の指標は何か」など、多くの質問がありました。 「JAIF のプログラムに参加する等し、日本との友好関係の発展に貢献したい」という感想がありました。

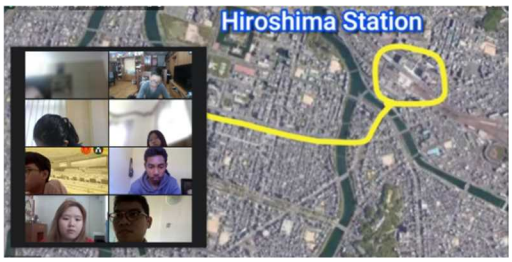
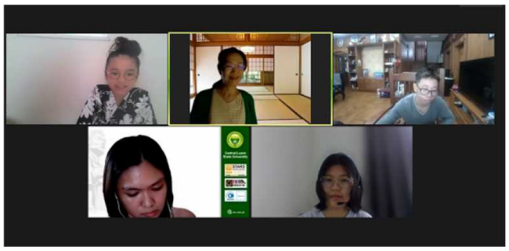
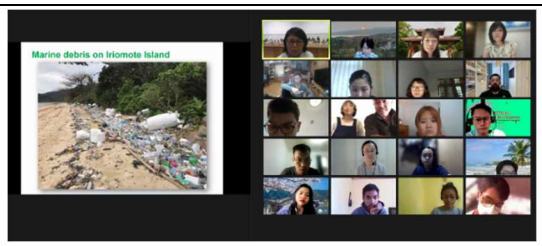
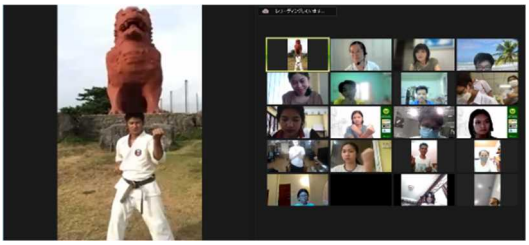
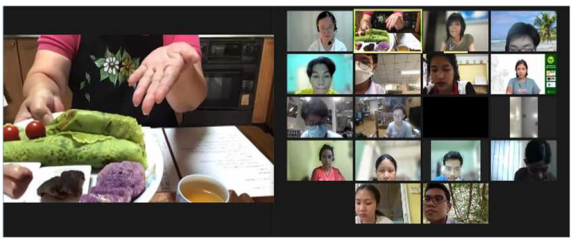
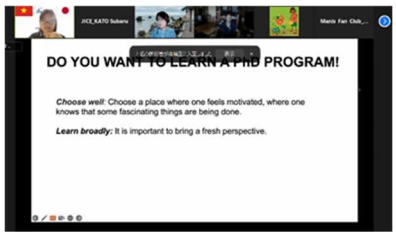
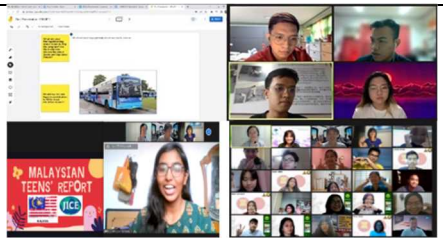
	所長　南口　直樹氏	
2 日目 7 月 20 日 東京都	【講義・視察・質疑応答】 国際機関日本アセアンセンター ① 機関概要説明　講師：広報担当官 宮内　智子氏 ② バーチャルオフィスツアー ③ 講義「日 ASEAN50 年の歩み～A Message to You～」講師：事務総長 平林　国彦氏 ④ 記念撮影	臨場感あふれるオフィス内のライブ視察に、参加者は関心を持って見学していました。 講義中、アプリを利用した日 ASEAN 関係に関する参加型クイズも行われ、楽しみながら活発な質疑応答があり、大変有益なプログラムになりました。「日本が ASEAN 諸国を支援する理由」「新型コロナによる打撃を受けた観光業の復興」「青少年向けプログラムについて」等多くの質問がありました。また、「この機関で働きたい」との声が多くありました。
3 日目 7 月 21 日 大阪府 茨木市	【学校交流】追手門学院中高等学校 ① 学校概要説明 ② 少人数グループ別での「SDGs に関する各国の取組についての意見交換」、交流会 ③ まとめ	参加者の生活とは異なる日本の学校生活に、興味津々の様子でした。 SDGs に関する各国取組等について、活発に意見交換し、相互理解を深めました。
4 日目 7 月 ① は 22 日、②は 22 日又は 23 日 広島県広島市	【日本文化体験・交流】 ① 株式会社 mint 広島ピースツアー （被爆者 2 世による講話聴講含む） ② ホームビジット （少人数に分かれて 10 家庭を訪問）	被爆 2 世の方から直接話を聞き、実際に広島各所（原爆ドーム含む）の映像を見ることで、より理解を深めた様子でした。「日本の歴史に対して違う印象を抱いた」という感想がありました。 ホームビジットでは、日本の生活・文化について知ることができ、素晴らしい経験になったという感想がありました。
5 日目 7 月 23 日 沖縄県 八重山郡	【SDGs 講義・視察・質疑応答】 ① 講義「世界自然遺産に指定された西表島の魅力、自然環境保全、オーバーツーリズムに対する課題等」 講師：一般財団法人西表財団事務局長 徳岡　晴美氏 ② 視察「エコツアー」 ガイド：Natures Delight 西表代表 今村　弘明氏	博物館の様々な展示物が紹介され、参加者はそれらの精巧さや緻密さに驚嘆し、臭いまで再現できる装置に驚きを隠せない様子でした。 また、西表の美しい自然や多様性に魅了され、地元住民の生活に関心を高めた様子でした。ガイドの方の「移住のきっかけ」「コミュニティの形成方法」「日々の暮らし」等、多くの質問がありました。

6 日目 7 月 25 日 沖縄県中頭郡	【沖縄文化体験・交流】 ① 読谷村の紹介 ② 伝統文化紹介：沖縄伝統空手（実演） 講師：ワールド王修会指導員 大城　光平氏 ③ 伝統文化紹介：食文化・料理（実演） ④ 伝統文化紹介：琉球舞踊（実演） 講師：玉城糸和会師範　古波倉　淳氏 ⑤ 伝統文化紹介：三線（実演） 講師：野村流古典音楽保存会師範 長浜　真輝氏	沖縄が空手の発祥の地であるということを知り驚いている様子で、型の数や流派に関する質問がありました。 舞踊と三線には多くの参加者から感嘆の声が上がりました。「師範になるにはどのくらい時間がかかるのか」「どのようにして伝統を継承しているのか」「ゆっくりした動きは早い動きよりも難しいのではないか」等多くの質問がありました。
7 日目 7 月 26 日 神奈川県三浦郡、インドネシア（ジャカルタ）、長崎県長崎市	【日 ASEAN 開発協力の学習】（注２） １．国際協力機構（JICA）インドネシア事務所訪問　講義：「ASEAN - JAPAN COOPERATION」 【SDGs の学習】（注２） 一般社団法人マニスファンクラブ訪問 講義：「Tanjung Puting National Park」 講師：代表　丸山　幸子氏 【ASEAN 留学生との交流】（注２） 長崎大学留学生　Thanh Nguyen Ngoc Lan 氏のプレゼンテーション	政府開発援助（ODA）の取り組み現場について知見を深めた様子でした。 マニスファンクラブの環境保護活動には大変関心を持ち聴講していました。「自国の野生動物保護のための活動の参考になった」等の感想がありました。 日本に留学を考えている参加者にとって、長崎大学留学生のプレゼンテーションは、大変参考になった様子でした。 各訪問先の質疑応答は活発に行われました。
8 日目 7 月 27 日	【ワークショップ・報告会での発表準備】	国別グループに分かれて、プログラム経験での学び、及びアクション・プラン（帰国後の活動）について、活発に議論しました。
9 日目 7 月 28 日	【報告会】プログラムでの学び・発見、アクション・プランについての国別表明	P8「６．報告会での発表内容」参照

（注２）このプログラムは、同窓生を対象とするプログラムと一部合同で実施されました。

２．記録写真

	
7 月 19 日【テーマ別講義】 SDGs について	7 月 19 日【テーマ別講義】 日 ASEAN 開発協力について

	
7 月 20 日【講義・視察】 国際機関日本アセアンセンター	7 月 21 日【学校交流】 追手門学院中高等学校（大阪府）
	
7 月 23 日【日本文化体験・交流】 広島ピースツアー	7 月 23 日【日本文化体験・交流】 ホームビジット（広島県）
	
7 月 23 日【SDGs 講義】 世界自然遺産に指定された西表島	7 月 23 日【SDGs 視察】 西表島エコツアー
	
7 月 25 日【沖縄文化体験・交流】空手	【沖縄文化体験・交流】食
	
7 月 26 日【視察・交流】 長崎大学留学生の発表の様子	7 月 28 日【報告会】参加者による発表の様子

３．参加者の感想（抜粋）

【グループ１「SDGs」参加者】

◆ **ミャンマー　高校生**

日本各地へのバーチャル訪問は、まるで自分がその場にいるような錯覚を覚え、魅了されました。本プログラムは私の考え方を変えるものでした。私が持ち得るエネルギー全てを駆使して、さらに一歩進んだ社会を作り上げていきたいと強く思わせる出来事でした。今後、学んだことを積極的かつ効果的に実践していきたいと思います。各プログラムは期待以上に素晴らしいものであり、どれが一番良いかを選ぶことはできません。そして、外国の友達を作ることができ、SNS を通じてお互いの文化交流をすることもできました。また、日本人が自分たちの文化や自然をどれほど大切にしているかを知り、深く関心しています。広島と西表島そして読谷村への訪問はとても魅力的で、思わず目を見開いてしまう素晴らしさでした。学校交流やホームビジットも興味深く、自分の環境と比較したり、家族や友人についても語り合うことができました。ここで学んだことをできるだけ多くの人々に広めていきたいと思います。

◆ **ラオス　高校生**

オンラインプログラムの最も優れた点は、日本に行ったことがない私でも日本について沢山のことを知ることができる、ということです。この交流は、学生である私にとって、日本だけでなく世界のさまざまな国についても多くを知ることができる素晴らしい機会となりました。

◆ **カンボジア　高校生**

戦前戦後の広島の歴史について明確に学ぶことができました。実際に原爆が落ちた位置や、原爆が広島の人々や社会に与えた影響についても詳しく教わりました。原爆で破壊された市電システムをたった 3 日で復活させた、という話は特に興味深かったです。

【グループ２「日 ASEAN 開発協力の歩み」参加者】

◆ **フィリピン　高校生**

JENESYS プログラムは、（日本と ASEAN の）関係組織についてだけでなく、文化、伝統、政府など多種に渡るテーマで、日本について学ぶ基本情報を詳細に紹介してくれました。私たちに有益な経験、楽しい経験をさせてくださったこのプログラムに感謝します。

◆ **東ティモール　高校生**

このプログラムでは、日本の文化、日本人、日本の学校制度等、新しいことを学ぶことができたので、とても感謝しています。

◆ **タイ　高校生**

日本の家庭を訪問し、日本人の家庭における風習、文化、食べ物、日本の技を知ることができてとても良かったです。また、日本の自然を訪れ、現地の人と話し、美しい自然環境を見たりすることも大好きになりました。

４．受入れ側の感想（抜粋）

◆ **交流校学生**

ディスカッション時、世界を変える方法について外国人目線の意見を知ることができてよかったです。

◆ **講師**

参加者のみなさんに西表島の魅力や課題等について、知っていただき、興味を深めていただきとてもよかったと思います。チャットに活発に意見や感想をいただいて、みなさんの積極性を感じました。

◆ **協力団体**

豊かな自然がある西表島を世界に向けて発信できることはオンラインの魅力だと思います。今回の企画の趣旨は、実際のツアーを通して伝えたいことを、オンラインで実施し、深く学んでいただくというもので、自信にも繋がりました。（参加者の）みなさんが当地にいらしたら、ぜひ実際に対面でアテンドさせていただきたいです。また、こういう経験を積み重ねて、私自身も海外にいけるようなプログラムに参加したいです。

◆ **交流校教師**

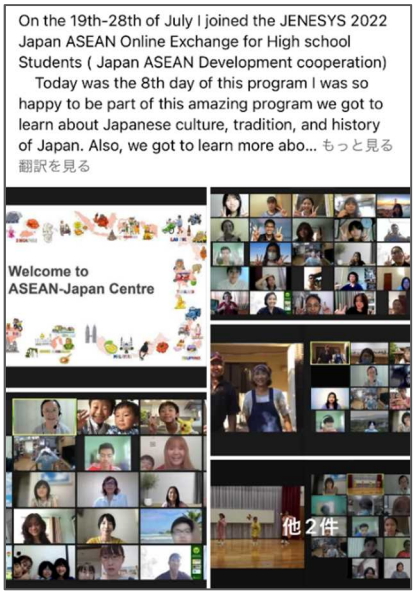
自身の学校での教育と生徒たちの学びの成果と課題を実感できました。課題が見えたことで、学校としても生徒個人としても、改めて今後の英語学習に必要なことが明確になったように思えます。また、ASEAN 諸国の学生がいかに優秀であるか、アジアの勢いがいかに強烈なものであるかの片鱗を感じることができたことは、日本人として大いに刺激になりました。このような仲間と将来世界を共創していけることは楽しみであるし、このような取り組みを日本全国に広めていきたいと思います。

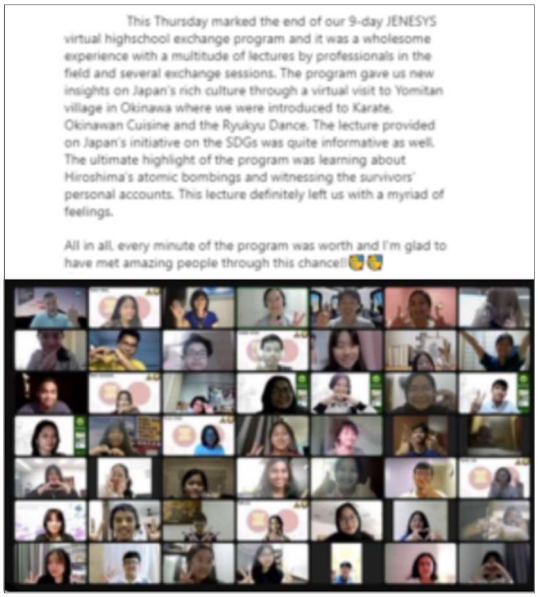
◆ **ホストファミリー**

（オンライン・ホームステイ）プログラムの実施については、語学力の低さから家族全員が不安に思っていました。しかし、通訳の方にフォローしていただき、また、シンガポールのプログラム参加者の方がとてもフレンドリーでメール交換もできて達成感を感じました。本当に実施して良かったと思います。

５．参加者の対外発信（抜粋）

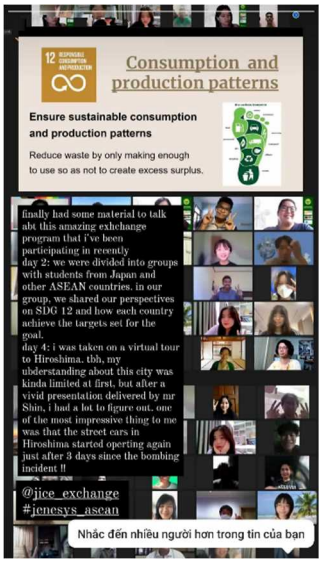
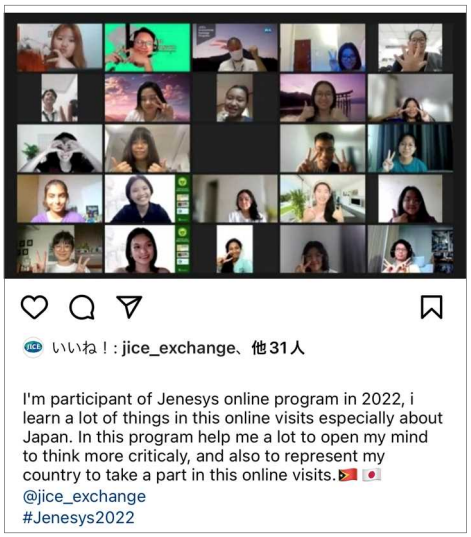
【「SDGs」グループ参加者】





7 月 27 日（Facebook） JENESYS 2022 日 ASEAN 高校生オンライン交流プログラムに参加しました。今日はプログラム 8 日目です。日本の文化、伝統、歴史について学ぶことができる素晴らしいプログラムに参加できとても幸せでしたし、もちろん SDGs についても学ぶことができました。追手門学院高校の学生達と意見交換しましたが、皆とても親切でフレンドリーなので新しい友達もできました。将来、又このようなプログラムに参加する機会があればいいなと思います。私にとって素晴らしい経験でした。	7 月 29 日（Facebook） 本プログラムの構成は、各分野の専門家による多彩な講義と交流となっていて、私たちは得難い経験ができました。沖縄読谷村をバーチャル訪問し、空手、沖縄料理、琉球舞踊について学び、日本の豊かな文化について、新たな気づきを得ることができました。日本の SDGs への取り組みについての講義も大変勉強になりました。広島の原爆について学び、被爆者の証言を目のあたりにした事は、私たちに様々な感情を抱かせました。今回、（日本の）皆様にお会いでき、感謝しています。

【「日 ASEAN 開発協力の歩み」グループ参加者】

	
7 月 23 日（Facebook） 2 日目は、日本と他の ASEAN 諸国のグループに分かれました。私たちのグループは、SDGs12 番について、目標達成への各国の取り組み、各々の視点を共有しました。4 日目は、広島のバーチャルツアーに参加しました。最初は広島についてあまり知りませんでしたが、留学生のプレゼンテーションの後、多くを理解することができました。最も印象的だったのは、原爆投下の 3 日後に、路面電車の運転が再開したことです。	7 月 27 日（Instagram） 私は、2022 年の JENESYS オンラインプログラムに参加しました。私はこのオンライン訪問を通じて、日本について多くのことを学びました。私はこのプログラムから、物事をより注意深く考察することを学び、また、自分の国の代表として参加することができました。

６．報告会での発表内容（抜粋）

発表の主な項目：

・プログラムを通じて日本について学んだこと、発見したこと

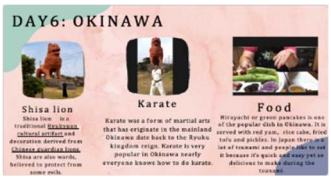
・プログラム期間に、ソーシャルメディアで情報発信した内容について

・プログラム経験を活かして、他の参加者と一緒に実践できること（アクション・プラン）

【グループ１「SDGs」参加者】

ラオスの発表







■ 日本についての学び（教育現場）：追手門学院高校との学校交流　DAY3
日本の学校は、小学校 6 年、中学校 3 年、高校 3 年ですが、ラオスの学校は、小学校 5 年、中学校 4 年、高校 3 年と少し違います。日本の学校では給食が提供されますし、校内は整理整頓が行き届いており清潔です。衛生であることは人間の生活にとって非常に重要であると説明されました。

■ 日本文化について発信したこと：沖縄　DAY6

- シーサー：中国の狛犬に由来する琉球の伝統的な文化遺産であり装飾品です。シーサーは結界でもあり、悪から守ってくれると信じられているようです。
- 空手：沖縄本島で生まれた武道でその起源は琉球王朝時代にまで遡ります。沖縄ではほとんどの人が空手の流儀を知っているほど人気ある武道です。
- 食文化：ヒラヤーチー（緑のパンケーキ）は、沖縄の代表的料理です。紅芋、餅、油揚げ、漬物と一緒に出されます。日本では台風が多いですが、そのような時でも手軽に作れて美味しいので、好んで食べられているようです。

■ アクション・プラン：ASEAN のコミュニティは、地域をひとつにする友好の架け橋のようなものです。私たちは知識を共有して、我々の経済が確かに成長するよう助け合います。より良いコミュニティを築くために私たちは国境を超えて協力し合います。

マレーシアの発表







■ 日本文化について学び私たちがすべきこと

・日本文化がいかに独特なものであるかを知りましょう

・日本文化を保存するためにみんなで最善を尽くしましょう

・未来の世代が（私たちと）同じような文化体験ができるようにしましょう

■ 日本について発信したこと：オンライン・ホームステイを通じて

・ 日本の一般家庭での礼儀作法を学んだこと
・ 日本料理の作り方を学んだこと
・ 日本人の日常生活を知ったこと

■ アクション・プラン：
SDGs のポスターを作ります。
SDGs に関する知識を学校内で周知させるために、学校内にポスターを貼り宣伝します。

ミャンマーの発表







■ 日本についての学び：ワンバッグ・ビーチクリーン・キャンペーン
環境・自然保護に関するプログラムは、私たちにとって本当に有益なものでした。例えば、西表島で行われる「ワンバッグ・ビーチ・クリーン」そして「プラスチック・フリー・ランチ・デー」もそうです。マニスファンクラブは、自然を保護する組織を作る時の良いお手本です。

■ アクション・プラン 1：SDGs や環境問題についての認識を SNS で広め続けたいと思います。NGO などでボランティア活動をすることもできるでしょう。私たちがまず活動することで小さな波を起こすことで、それがやがて大きな波となっていくのです。

■ アクション・プラン 2：プログラム中に出逢った様々な国の友人達との多様性を認め、自分達の意見を交わし、文化交流を続けていきたいと思っています。

【グループ２「日 ASEAN 開発協力の歩み」参加者】

タイの発表







■ 日本についての学び：日本の SDGs
・ 日本は、このコンセプトの発表後、急速に SDGs の目標に向けて行動を起こしています。
・ 民間と公共セクターが SDGs を支える重要な役割を担っています。

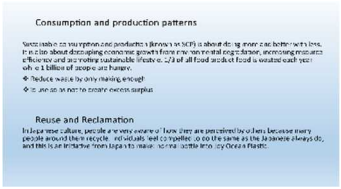
■ 日本についての発信：国際機関日本アセアンセンター
・ 日本アセアンセンターの設立：安定と繁栄に向けた協力の推進のため
・ 最初の日 ASEAN 首脳会議が 1977 年に開催されました。
・ 環境・経済・社会の発展を支援・促進するため、JAIF JICA AJC が設立されました。

■ アクション・プラン：「地球に関する SDGs」
ゴミ問題、プラスチック問題は、私たちの地球、生活、人間や動物にさまざまな影響を及ぼします。そのため、私たちはお互いに助け合いながら生活を変えていく必要があります。学校での廃棄物管理等、廃棄物の管理推進、プラスチック問題に取り組みます。
スローガン："私たちの小さな行動が、大きな変化を生む“

東ティモールの発表







■　日本についての学び：１日目「日本における SDGs " フィーバー "」

ここ数年、日本の社会は SDGs フィーバーに沸いています。新聞、ラジオ、テレビ、そしてあらゆるウェブサイトが SDGs を頻繁に取り上げています。どの小学校や高校でも、SDGs の授業や クラブ活動が行われています。そして、民間企業も持続可能な戦略を採用し始めています。

日本が SDGs フィーバーしている証拠は；

- 女性向けファッション雑誌が SDGs を特集
- 学生や ビジネスマンのための SDGs カードゲーム
- SDGs のラッピング列車と、ラッピング列車内もテーマが SDGs
- SDGs 商店街

■　日本についての発信：2 日目「国際機関日本アセアンセンター」

日本アセアンセンターを見学しました。私たちは、日本アセアンセンターを案内してもらいました。日本アセアンセンターでは、スタッフの方々とお会いし、職場では年齢、文化、人種を問わないというようなメッセージをもらいました。日本アセアンセンターでは、様々な国から来た多くの人が働いています。

（私たちがすべきことは何か）

- 私たちは、自然を大切にする大きな責任を負っています。この世界は私たちを必要としているのです。ほんの少しの行動で、この地球は大きく変わります。
- トンネルの先に光は見えています。地球上のあらゆる生き物にとって、より良い暮らしを実現するために、私たちはただ行動を起こすだけでいいのです。
- 私たちは皆、自分の中にある力からは程遠い存在なのです。世界を勇気づけるために、行動を起こしてみてください。

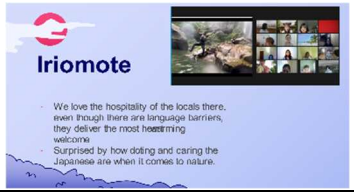
■　アクション・プラン：

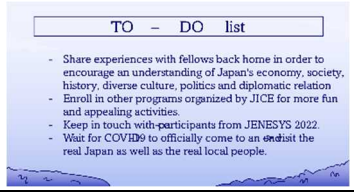
消費と生産のパターンについて：持続可能な消費と生産（SCP）とは、より少ない資源でより多くを、より良く行うことです。また、経済成長と環境破壊を切り離し、資源効率を高め、持続可能なライフスタイルを推進することでもあります。毎年、全食料品の 1/3 の食品が廃棄されている一方で、10 億人の人々が飢餓に苦しんでいます。

- 私たちは、必要な分だけ作ることで、無駄を省きます
- 私たちは、余分なものを作らないようにして、作ったものは使いきります

再利用と再生について：日本の文化では、周囲にリサイクルしている人が多いため、自分が他人からどう見られているかを強く意識しています。日本人がいつも行っていることと同じことを、私たち個人でもやらなければならないと感じています。そして、普通のボトルをジョイオーシャンプラスチックにする、という日本の取り組みも広めたいと思います。

ベトナムの発表





■ 日本についての学び：

言葉の壁があっても、西表島の人たちが私たちを歓迎してくれたことが嬉しかったです。彼らは、とても心温まるもてなしをしてくれました。

日本人の自然に対する愛情と思いやりの深さに驚きました。

■ アクション・プラン：To-Do リスト

- 日本の経済、社会、歴史、多様な文化、政治、外交についての理解を促すため、自国の仲間と経験を共有します。
- JICE が主催する他のプログラムに参加して、より楽しく、より魅力的な活動を行います。
- JENESYS2022 に参加した仲間たちと連絡を取り合います。
- コロナが公式に収束したら、本当の日本、そして本当の西表島の人たちを訪ねます。

実施団体名：一般財団法人日本国際協力センター（JICE）